



し	返	そ	「	二	「	「	今	「	湯	「	か	場	咄	ん	才	る	カ
が	り	う	そ	人	そ	あ	朝	あ	に	な	け	を	嗟	で	の	こ	ウ
札	、	言	れ	の	れ	ん	の	あ	一	ー	た	繫	に	す	口	け	ン
を	「	い	見	静	は	た	こ	あ	に	に	。	ぐ	ま	か	角	し	タ
見	こ	な	ら	か	。	に	。	。	、	。	。	よ	と	。	は	の	ー
ら	の	が	ら	な	。	も	。	。	蛙	。	。	う	。	。	自	声	へ
る	方	笑	番	笑	。	い	。	。	ど	。	。	に	。	。	然	と	と
よ	を	い	才	い	。	た	。	。	も	。	。	。	。	。	と	。	目
う	知	た	は	声	。	だ	。	。	の	。	。	。	。	。	上	。	を
に	っ	。	一	が	。	き	。	。	油	。	。	。	。	。	が	。	配
一	て	。	度	木	。	た	。	。	で	。	。	。	。	。	。	。	り
步	い	。	掛	に	。	。	。	。	汚	。	。	。	。	。	。	。	優
分	ま	。	け	吸	。	。	。	。	れ	。	。	。	。	。	。	。	し
横	す	。	札	わ	。	。	。	。	ち	。	。	。	。	。	。	。	く
に	か	。	の	れ	。	。	。	。	ま	。	。	。	。	。	。	。	語
体	。	。	方	て	。	。	。	。	っ	。	。	。	。	。	。	。	り
を	と	。	を	い	。	。	。	。	た	。	。	。	。	。	。	。	か
ず	こ	。	振	た	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	け
ら	け	。	り	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	て
																	く

「想像もしていなかった出来事が起きて、	に「そうですね。」と言葉を繋いだ。	「それは・・・」番才は言い淀んだが、すぐ	「それで混乱して慌てたんだねえ。」	だその・・・心の準備ができていなくて。」	「迷惑・・・ですか。いえそんなことは、た	「自分たち以外がいたら迷惑かい？」	“人”だけだと思っっていましたから。」	「ええ、まあ。ここを利用されているのは	げた。	ある笑みを湛えながら、こけしは番才を見上	先程のやり取りを見ていたかのように含みの	う。」	ている者は把握してるさ。・・・驚いただろ	「一応ここで女将をやってるからね。宿泊し	ね？」	「この“びろく”という方をご存知なのです	それでさつき声をあげてたんだねえ。」	「んー？ああ、美祿（びろく）かい。そうか	した。
---------------------	-------------------	----------------------	-------------------	----------------------	----------------------	-------------------	---------------------	---------------------	-----	----------------------	----------------------	-----	----------------------	----------------------	-----	----------------------	--------------------	----------------------	-----

慌てふためいた拳句に、自分の憶測や願望を  
 彼女に押し付けました。それも、自分の中で  
 は“彼女のために”と勝手な大義名分を作り  
 上げて。全てお見通されているままですよ。」  
 番才は自分が零に発した言葉を思い返し、入  
 口から外の緑を仰ぎ見た。  
 「なーにそんなに落ち込むことじゃない。」  
 こけしの方は見ていないが、表情が連想でき  
 るような優しい口調だった。  
 「人生ってやつは、何が起きるかわからない  
 から面白いのさ。それに想像もつかない出来  
 事は、それこそ今まで想像もしてこなかった  
 自分と出会う機会にそのまま変貌する。これ  
 であんたは、次に同じようなことが起きても  
 もっと冷静でいられるはずさ。」  
 「そうだといいですけどね。ただ、今すぐ  
 にはそう前向きに捉えられそうにありません  
 出すつもりもなかった嘆息が、風に吹かれて  
 顔に張り付く。どうやって立っているのかが  
 不意にわからなくなり、番才は自分の足下を

向	こ	よ	せ	軽		い	す	動	け	で	え	自	な	「	続	反	や		見
か	け	う	な	く	自	っ	る	に	し	追	な	分	。	ま	け	論	な		た
い	し	な	い	飛	分	た	こ	に	の	っ	く	の	。	あ	る	や	い		。
合	は	空	番	び	の	が	と	駆	背	た	な	足		ー	こ	や	い		
っ	、	間	才	越	の	、	で	ら	中	、	。	の		。	と	。	か		
た	今	の	を	え	二	一	涙	れ	を	、	。	横		で	心	。			
。	朝	椅	、	て	倍	度	を	た	見	、	。	に		情	を				
	の	子	カ	内	ほ	目	乾	が	な	背	。	見		表	し				
	よ	を	ウ	側	ど	を	か	、	ぜ	筋	。	え		。	。				
	う	持	ン	に	も	逸	し	一	だ	を	。	て		。					
	に	っ	タ	入	あ	ら	し	度	か	を	。	い		。					
	対	て	っ	る	し	数	回	無	を	。	た		。						
	面	来	の	た	形	回	瞬	瞬	性	正	。	こ		。					
	す	さ	角	こ	で	き	き	き	に	し	。	け		。					
	る	せ	に	と	座	たい	たい	たい	泣	て	。	し		。					
	形	せ	あ	に	ら	衝	衝	衝	き	着	。	の		。					
	で	た	る	驚	せ	たい	たい	たい	たい	い	。	着		。					
	番	た	き	き	た	たい	たい	たい	たい	て	。	物		。					
	才	。	を	を	。	。	。	。	。	。	。	が		。					
	と		。	。	。	。	。	。	。	。	。	見		。					

と	を	こ		微	何	に	差	「	の	と	こ	「	や	ば		な	し	番	
は	求	け	「	笑	事	不	し	こ	液	入	け	や	つ	い	い	笑	は	才	「
な	め	し	こ	ん	も	安	出	れ	体	っ	し	れ	で	い	い	み	尋	の	ん
い	て	と	れ	だ	な	げ	さ	は	を	っ	は	や	す	っ	い	を	ね	左	？
と	み	器	に	だ	く	な	れ	・	乗	て	台	れ	す	！	ん	を	、	手	番
悟	た	を	で	。	「	表	た	・	せ	戻	か	世	？	あ	で	見	事	に	才
っ	が	交	す		怪	情	洗	・	っ	っ	ら	話	あ	、	か	せ	情	つ	は
た	、	互	か		我	を	面	・	て	き	下	が	、	こ	。	た	は	い	ど
番	浸	に見	？		し	か	器	か	。	た	り	焼	こ	れ	。	う	は	し	う
才	ける	つめ	「		て	か	の	べ		。	カ	け	れ	で		。	は	た	し
は	ま	な			る	か	よ	る			ウ	る	す	す			だ	ん	た
ゆ	で	が			手	番	う	番			ン	子	か	。			だ	い	い
っ	話	ら			を	才	な	に			タ	だ	。	な			い	？	「
く	が	必			浸	に	器	、			ー	ね	。	ん			。	。	。
り	進	死			け	こ	に	こ			の	。	。	ん					
と	展	に			て	け	こ	け			奥			。					
左	す	説			み	し	け	し			の								
手	る	明			な	は	し	は			部								
を	こ				。		液				屋								
透					と		体				へ								





こ	け	し	は	乗	せ	て	い	た	お	盆	に	器	と	グ	ラ	ス	を	置	き
の	水	が	飲	み	た	く	な	っ	た	ら	食	堂	に	行	き	な	。		
「	ひ	っ	ひ	っ	ひ	っ	。	よ	く	効	い	て	る	ね	え	。	ま	た	そ
「	自	分	の	情	け	な	さ	が	・	・	よ	く	わ	か	り	ま	す	。	」
る	。	今	は	さ	っ	き	と	比	べ	て	ど	う	だ	い	？	」			
て	柔	軟	な	自	分	ら	し	い	考	え	方	が	で	き	る	よ	う	に	な
と	“	冷	静	”	に	な	っ	て	頭	を	冷	や	せ	ば	、	落	ち	着	い
そ	れ	が	冷	え	る	、	あ	ん	た	達	に	わ	か	り	や	す	く	言	う
な	く	な	っ	て	画	一	的	に	し	か	考	え	ら	れ	な	く	な	る	。
な	い	思	考	で	熱	が	上	が	る	と	ね	、	柔	軟	性	は	極	端	に
「	頭	は	そ	の	逆	。	混	乱	し	た	り	慌	て	た	り	、	隙	間	の
「	は	い	。」																
冷	め	る	と	硬	く	な	る	。	こ	れ	は	理	解	で	き	る	ね	？	」
「	身	体	は	温	め	る	と	柔	軟	性	が	向	上	す	る	け	ど	、	
え	て	く	る	。															
こ	け	し	の	声	も	水	を	飲	む	前	と	は	ま	た	違	っ	て	聞	こ
よ	。」																		
「	人	間	の	身	体	と	頭	は	違	う	構	造	で	出	来	て	る	ん	だ
こ	ち	ら	を	見	て	い	た	ん	だ	ろ	う	？	」						
「	な	ぜ	・	・	美	祿	と	い	う	人	は	、	“	泣	き	な	が	ら	”



